

## 保育者養成校におけるピアノ6手連弾の試み

An experiment of piano for 6 hands in the childminder training school

林 麻由美 (千葉敬愛短期大学)

Mayumi HAYASHI

(キーワード)

保育者養成校、6手連弾、ピアノ経験者、ピアノ演奏、保育現場

### 要旨

保育者養成校のピアノ指導において、その初心者に向けての指導法については取り上げられる機会が多いが、ピアノ経験者については、課題が弾けていれば問題ないと考え授業を進めてしまうことが少なくないのではないかと。本発表で学内コンサートでのピアノ経験者による「6手連弾」を通して、その取り組みから、保育者養成校のピアノ経験者に向けた音楽指導の可能性を検討する。

#### (1) 「ふれあいピアノコンサート」の概要

本校では毎年12月に学生有志と器楽担当教員によるコンサートを千葉市内のホールにて開催している。今回は学生18組、教員6名が出演した。発表者がレッスンを担当したピアノ経験のある学生は、6手連弾を希望し、演奏曲はヨハン・シュトラウス1世作曲「ラデツキー行進曲」に決定された。演奏会当日までに、1回約15分のレッスンが8回、出演者全員のリハーサルが2回行われた。

#### (2) 6手連弾の指導工程

1～3回目までのレッスンでは、ウィーンフィルハーモニー管弦楽団の映像視聴、スコアの提示、聴き慣れない楽器表示や移調楽器、音部記号についても知識として教示するなど、曲全体の概略を示した。演奏指導については、学生達の演奏を聴き修正するのではなく、発表者が10年間の学習経験で得たピアノ連弾の練習方法を提示し、発表者の誘導のもと、曲の冒頭部分を徹底的に行った。また、使用する楽譜では楽曲の中間部分が存在しないため、ピアノソロ用楽譜やスコアを参考に、中間部分を検討し、学

生達はそれぞれのパート譜を記譜する作業まで経験した。

4～6回目のレッスンは各パートの演奏法と合わせにくい個所の部分練習に時間を割いた。また、曲の最後の部分の演奏法を決定した。

最後の2回のレッスンは、練習方法やお互いの音の聴き方が理解できるようになり、学生達自身で話し合いながら練習が進められた。

#### (3) コンサート当日について

当日は1組5分のリハーサル時間内で、曲全体の通しと、事前に学生同士で打ち合わせされた部分練習が行われた。(口頭発表時にリハーサルの映像を投影した。)本番は学生達が満足する出来栄であった。

#### (4) まとめ

当初学生達は、譜面自体がシンプルであるため、簡単に曲を仕上げられると思っていたようだが、実際に取り組んでみると、ソロにはないアンサンブルの難しさや重要性に気付いた事が演奏会後の感想から伺えた。ピアノ経験者である学生達にとって、今回の経験が1つの新しい学びとの出会いになったことが分かった。また、発表者は今回の「6手連弾」の取り組みにより、アンサンブル力を高めていくことが保育者養成における最も重要な「弾き歌い」の学習にも繋がるのではないかと考え、今後の授業の展開を検討していきたいと考えている。